令和７年度　神奈川県立相模原中央支援学校　学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和７年度 神奈川県立相模原中央支援学校 第２回学校運営協議会		
開催日時	令和７年 10 月 14 日（火）　9:40～11:30		
開催場所	相模原中央支援学校　地域生活支援室		
出席者	学校運営協議会委員　９名（本校校長を含む）　（３名欠席）		
次回開催予定日	※未定		
問合せ先	相模原中央支援学校　副校長　榎本　郁子　　電話　(042)768-8510		
掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	

審議・会議経過

１　学校運営協議会

（１）学校長あいさつ

本日はお集まりいただきありがとうございます。今日は、子どもたちが学んでいる様子、生活している様子を見ていただきながら、と思っている。

４つのポイントを常に教職員に伝えている。

・わかりやすい授業
・子どもたちの人権を守る
・保護者との信頼関係を築く
・不祥事防止

三方良しの精神を学校に当てはめて、子どもにとっては楽しい行きたいと思える学校、保護者には安心して通わせられる学校、教職員にとってはやりがいのある学校、地域からは信頼される学校を、と教職員に話している。忌憚のない意見をお願いしたい。

（２）委員紹介

・名簿順にご挨拶をいただく。
　管理職・総括教諭の紹介

２．学校評価部会中間報告

ア　教務グループ

１年間の目標　「子どもの「できた」を支援する授業を実践する」に対する具体的な方策として、個別教育計画の有効的活用による正確な実態把握を実施している。個別教育計画を見直す習慣の意識付けも行なっている。実態把握をした上で、授業にどう活かされているかは、「授業参観シート」で確認している。「授業者シート」は、授業者自身が振り返りを行い、「子どものできたの姿」やそのための手立てや工夫をする上で役立てている。

「できた」の姿の想定や個別教育計画との関連に差が見られた時には、より具体的な目標設定や実態把握に関する内容の意見交換ができるよう、教務グループが働きかけていきたい。

年間で２回授業参観日を設定すること、普段の授業参観について周知することを引き続き取り組んでいく。

イ　研究研修グループ

１年間の目標「授業改善を進め、専門性の向上を図る」に対する具体的な方策は、「教科やテ

ーマに沿った授業検討会を実施する。学習会・研修会を実施する」こととしている。それらができたか、というところを評価の観点にしている。具体的な取り組みとして、チームによる授業検討会を行う実践研究を進めている。チームによる授業検討会は、評価基準に着目し、子どもの「できた」「わかった」を引き出す支援について考え、授業改善につなげている。ICF 関連図作成演習の研修も行った。夏の公開研修は 6 講座、多くの参加者があった。外部講師による講演会も行った。前庭覚や固有覚について学び、子どもたちの苦手さを疑似体験し、子どもの行動の意味や背景について考える機会となった。保護者からも好評であった。

教材教具展を夏休みに実施した。本校の高根教材支援研究所で作成された共通教材も展示された。

1 年間目標「一人ひとりのニーズに応じた端末活用の実践を進め、学びの拡充を図る」に対する具体的な方策は、「ねらいをおさえた端末の活用や効果的な電子黒板の活用を進める」こととし、それらができたか、成果を共有することができたかを評価の観点としている。ICT 活用研修を行い、実践の共有と体験型の研修を行った。ICT 支援員による ICT 活用学習会を行った。中学部では、スイッチやアプリを待つようした授業を行い、生徒が「できた」を実感することができた。

ウ　総務グループ

1 年間の目標を「通学支援を利用して、安全に通学することができる体制の整備をすすめる」こととし、具体的な方策を「訪問看護や福祉車両の等の事業者と連携し、安全な通学支援事業を実施する」として実践した。達成状況としては、通学支援事業を実施している生徒について、関係機関と情報共有する場を作り、安全な通学支援事業を実施することができた、課題・改善方策として引き続き、必要に応じて関係機関との連携を進め、安全な通学支援事業を実施していくこととする。

災害時に安全で安心して過ごすことのできる環境の整備に取り組む、という 1 年間の目標に対して、具体的な方策として、災害時に使用する物品の確認や設備の使用方法について、全職員で共有することとして実践した。その結果、夏季休業期間に、消火栓・消火器の使用体験、防火シャッターの作動体験、発電機・蓄電池の確認をし、全職員で使用方法について使用することができた。課題として、避難訓練の際、火災報知機や防火シャッター等を活用し、より実践に即した訓練をしていくことを挙げた。

関係機関と連携して、不審者対応訓練に取り組み、全員で対応方法を共有するという 1 年間の目標に対し、不審者侵入防止対策等、危機管理体制の充実を図るという具体的方策を立てた。相模原警察より講師を招き、不審者対応訓練を行った。不審者への基本的な対応を学び、1 学期の訓練を振り返ることができた。今後、日時を設定しない訓練を行い、研修での助言を生かしていきたい。

エ　支援連携グループ

卒業後の過ごしをイメージした学習の充実という点において、進路支援専用サイト「進路ステーション」の開設に向け準備を整えた。今後、より活用しやすいものに改善していきたい。

域資源をいかした余暇活動の充実を図るという点において、「ほかほかふれあいフェスタ」

や「さがみ風っ子展」など、積極的に相模原地区の作品展や地域フェスタに児童生徒の作品を出展したことが挙げられる。地域にとっても、本校の子どもたちにとっても共に生きる地域での過ごしが充実するものになるよう取り組んでいく。

地域の学校と連携・協力し、子どもの社会性を育む教育の充実という点において、今年度も共和小学校４年生徒の学校間交流を行なっている。支援相談チームによる出前授業、集会を実施した。本日も共和小との交流会を行なっている。小グループ同士で交流する予定で、より身近に交流できる場となっている。

センター的機能の充実を図るという点において、相模原地区におけるインクルーシブ教育の推進をするために巡回相談を行なっている。１校につき数名の相談を受けることがある。丁寧な相談ができるよう、ケース会を２日間にわたって行っている。

３．授業参観

休憩

４．切れ目ない支援部会中間報告

・今年度の目標と取り組み

学校目標にある「子どもたちの自立と社会参加を目指し、将来地域でいきいきと暮らすことができるよう、地域とともに余暇支援の推進を図ること」に向けて、在校生・卒業生が、生涯にわたり切れ目なく健康づくりができる場を提供していくための社会資源づくりに取り組んでいる。

・４年間の目標

将来を見据えた地域生活充実のための、余暇活動、障がい者スポーツを促進する

・１年間の目標

余暇活動、障がい者スポーツを促進する

・今年度の目標と具体的な取り組み

ボッチャについての活動を実施する

余暇活動の幅を広げる

スポーツ以外の余暇活動についても検討する　という目標に対し、第４回ぎんがボッチャ体験会、第４回ぎんがボッチャ大会、パラスポーツ用具の貸し出し、スポーツ以外の余暇活動事業の開拓を行っている。

夏の公開研修会の一つとしてぎんがボッチャ大会を実施した。また、第４回ぎんがボッチャ大会を１０月に予定している。広報活動の工夫や地域とともに運営していく視点を持って計画していく。

本校では、パラスポーツ用具の貸し出しを行っている。スポーツ以外の余暇活動の開拓として、校内で商店街交流、地域講師の希望アンケートを実施中である。地域の活動への参加や地域での活動として、大野北ふるさとまつりでのパン・菓子販売、ほかほかふれあいフェスタでの作品展示、校舎周り歩道の除草・清掃活動、また、校舎前三角地帯の植花活動を行っていく。

引き続き、パラスポーツの取り組みを定着、進化させながら、スポーツ以外の余暇活動を広げる取り組みもしていきたい。今後も子どもたちの自立と社会参加を目指して、地域とともに取り組んでいきたい。

5．地域連携部会中間報告

・今年度の取り組み（中間発表）

一つ目は、余暇活動について、地域資源を活用しながら子どもたちが学校の外へ出て好きな活動を見つけられること、二つ目は、豊かな生活につながる趣味の充実を図ることを目標に取り組んでいる。

地域資源の活用としては、近隣商店、郵便局等での買い物学習、地域の公園への散歩をとおして屋外での活動の活動の充実、市立博物館での活動などを行った。

趣味の充実としては、外部団体による打楽器演奏会の実施が挙げられる。楽器に触れたり、みんなで演奏したりする経験ができた。たくさんの実体験が子どもたちの興味の幅を広げるきっかけになることを期待している。

引き続き、子どもたちの学びにつながる場、豊かな生活を送れる礎として地域に見守ってもらいたい。

6．意見交換

・実習の様子を見て、学校できちんと教育をしているという印象を受ける。インターンシップとして働く、また卒業後働くというイメージを持てた。実効的で役に立つことをしっかりと教えているという印象を持った。

・近隣小学校との交流の日は支援学校の子どもの目が輝いているというのを聞いて嬉しくなった。近隣小学校の児童は障害のある子に対して理解があり、優しい。何でも手助けをするのではなく、必要な支援、声かけができている。それは、交流の成果だと思う。これからも続けてほしい。

・外からの材料を使って、学校でパンを作って地域に販売して喜んでもらえるという流れを学校のペースで行なえば、障害のある子が少し背伸びをして頑張れる。学校と地域とでうまくできるということはいいと思っている。作業をする際、作業台の高さの調整など、環境整備が必要。

教員には、保護者から相談されたときに、答えは出なくても一緒に考えるという姿勢があればよい。

・実習の様子を見て、未来に向かって進んでいるという実感を持てた。

学校では、我が子も見守っていれているという実感がある。親でも気づかない変化を教えてくれる。子どもと一緒に教員が喜んでくれる、共感してくれることがありがたい。

・４部門あり、それぞれの部門、人数もボリュームもあり、一体感が難しいところがあるが、同じ目標に向かって一緒に取り組んでいる場面を見られてよかった。近隣小学校との交流が引き継がれているのもすばらしい。

働き方改革に向けて、時間の使い方や工夫について教えてほしい。

（回答）ベースミーティングについては、年間で設定し、時間の確保をしている。共有は、資料に残して行っている。今後はデータの共有をして時間の効率化につなげていきたい。

働き方改善という点では、昨年教育課程を見直し、朝の打ち合わせの時間の使い方、17：00以降の電話の自動応答により、その時間を教材づくりや話し合い等の時間に当てている。

・就労援助センターが知的で就労する人が先を見越して高３よりもっと前の中学部のときからつなげることができたらよい。

ほかほかふれあいフェスタで、情報提供ができればよかった。けやき会館でのバスケットサー

クルの運営に関して、教員の協力も得られたらよいと思う。

・就労先でのつまずきがないように地域のアセスメントに積極的に取り組んでもらえたらよい。

・実習を見学し、障害を持った人の離職率が低いのは、学習の積み重ねの成果ではないか。

もらった意見を生かしていきたい。

7．校長挨拶

学校の様子を見ていただき、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。引き続き本校の応援団として皆様から貴重な意見をいただきながら、支えていただきながら進めていきたい。ありがとうございました。

8．終わりのことば

【副校長】これで第２回学校運営協議会を終了する。